事務事業調書	No	712	課 名	給食課	起 案 者	稲垣智昭
平成23年度			係 名	庶務係	決 裁 者	岩瀬愼次
事 業 種 別	市民サービス		区 分	継続	業務一覧No	4,6,7,18,20,21,25
事務事業名	給食用物資購入事業				他 係名	北部調理場,中部調理
					他係 業務一覧No	北部調理場(1,3,8),中部調

1 事務事業の位置付けと起案事由(事業の必要性)

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 3 学校教育 2 義務教育 5 学校給食 2 地産地消の拡大	予算科目(会計)	一般会計
		予算科目(款・項・目)	50-30-35
		総合計画以外の計画	
		関連する総合計画の施策	5-1-1-5-2
性質区分	市の内部事務事業	法定受託事務	無
根拠法令	無		
実施方法	直営	委託先	(県栄養士)
実施期間	開 始 平成14年度	経 過 9年目	終 了 期 間
公約・議会答弁	有	H17.6月,H19.3月・9月議会：地産地消、H20.3月：食の安全(中国残留農薬)	
陳情・市民要望	無		

2 事務事業の概要

求める成果	誰(受益者)が	園児・児童・生徒のみなさんに安全・安心・安定的に給食を提供し	～になる	地場農産物や地域農業への理解と関心が高められるよう努めます。
事務事業の内容	安全・安心で良質な学校給食を安定的に提供するため、地場農産物の購入を含め毎月の給食物資検討会で検討、調整を図ります。			
事務事業進捗状況	・毎月実施する給食用物資検討会において、地元農産物の積極的な採用を図ります。 ・JAあいち中央だけではなく、他の青果物納入業者へも地元農産物納入を依頼します。 ・地産地消品目としての米粉パン、県内産小麦使用パン、地元産大豆使用豆腐など青果物以外についても使用範囲の拡大に努めます。			
改善・対策の履歴	・ＪＡと協力し、ダンボールによる納入からコンテナ納入への転換など農産物運搬に係る環境負荷の低減を継続して図りました。 ・業者聞き取りの上、給食物資の原材料での地元産使用を毎年の業者説明会で依頼しました。			
環境配慮の視点	環境目標○－基本的施策○－具体的施策○			

3 事務事業の事業費(千円)、人員推移(人)

	項 目		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度
			目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)
コスト	総事業費 f=a+d+e		884,645	907,675	962,960	918,224	975,952	939,294	971,000
	財 源 計 a		874,103	897,133	954,677	909,941	967,669	931,011	971,000
	財源の内訳	国 庫 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0
		県 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0
		市 債	0	0	0	0	0	0	0
		その他( )	0	0	954,677	909,941	967,669	931,011	971,000
		一 般 財 源	874,103	897,133	0	0	0	0	0
	受 益 者 負 担 金		0	0	954,677	909,941	967,669	931,011	971,000
	職 員 人 件 費 d		10,542	10,542	8,283	8,283	8,283	8,283	0
	内 訳	従 事 職 員 数	1.40	1.40	1.10	1.10	1.10	1.10	0.00
	人事課予算分人件費 e		0	0	0	0	0	0	0

4 求める成果を得るための活動

				年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
活動	活動①	活動名（活動内容）	地場産青果物給食物資購入	見込(単位)	874.00	135.00	152.00	0.00
				実績b(単位)	133.00	150.00	150.00	
		指標名(単位)	給食物資購入(JAあいち中央管内流通品目)(数量(t))	活動の総事業費f 実績	27,076	27,519	3,765	
				単位コストg=f÷b 実績	203.58	183.46	25.10	
	活動②	活動名（活動内容）	地場産以外の給食物資購入	見込(単位)	11.00	1.00	1.00	0.00
				実績b(単位)	1.00	1.00	1.00	
		指標名(単位)	給食物資購入(式)	活動の総事業費f 実績	880,223	890,329	4,142	
				単位コストg=f÷b 実績	880,222.50	890,328.50	4,141.50	
	活動③	活動名（活動内容）	給食用物資検討会での地場産検討回数	見込(単位)	11.00	11.00	11.00	0.00
				実績b(単位)	11.00	11.00	11.00	
		指標名(単位)	検討会開催回数(回)	活動の総事業費f 実績	377	377	377	
				単位コストg=f÷b 実績	34.23	34.23	34.23	

5（1） 成果の目標と実績

		指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
成果	成果1	地元農産（青果）物の購入割合(%)	見込(単位)	40.00	40.00	40.00	0.00
			実績(単位)	51.80	53.00	49.20	
			達成状況	達成	達成	達成	
		目標成果指標値	0.00	目標達成年度			
	成果2	指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
			見込(単位)				
			実績(単位)				
			達成状況				
		目標成果指標値		目標達成年度			

5（2） 成果１、２以外の成果

	市民の意見、利害関係者の声などをプラス・マイナス両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
成果	･地元農産物を給食に導入したことにより、児童･生徒だけではなく保護者・学校関係者へも地域農業、給食に対する意識が高まった。 ・園児、児童、生徒、保護者、学校関係者にも地産地消の言葉が浸透してきたと感じられる。

6 単位コストと成果の分析

	項目	どのような内部の取り組みや外部要因が影響を与えたのか、プラス・マイナスの両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
分析	単位コスト	・出荷の少ない時期においても地元農産物の積極的な採用を進めた。反面、虫などの対応に苦慮した。 ・ＪＡだけでなく、他の青果業者においても地場産物納入の動きが出てきている。
	成果1，2	・地場産農産物の使用を給食献立原案作成時から取り入れることにより、通年での地場産割合が目標値を上回ることが出来た。

7 所属長の改善案

	コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案、市民にわかりやすく説明する
改善	・安全・安心・安定的な給食が提供できるよう給食物資を選定します。 ・地産地消については、地場農産物の端境期や経済比較し給食費とバランスをとりながら努めます。

8 方向性

方向性	必要性、効率性、有効性を踏まえ、今後どのように事業を進めるか、方向性を選択し、内容を市民に説明します
維持・継続	給食事業において栄養面･価格面等、様々な条件とのバランスをとりながら、地産地消を含め安全・安心な給食が安定的に供給できるよう調整を図ります。